

平成22年度 調査委員会 アンケート調査結果報告

(社) 福島県放射線技師会調査委員会 ○渡辺和夫

佐藤孝広 山口大 佐藤久光 目黒昭夫 松枝直宏 古川義一 船生晴雄 嶋田峻二

- 当調査委員会では、調査テーマ『放射線技師の定数の基準は?』に関して想定質問形式でアンケート調査を実施した。

● 結果報告

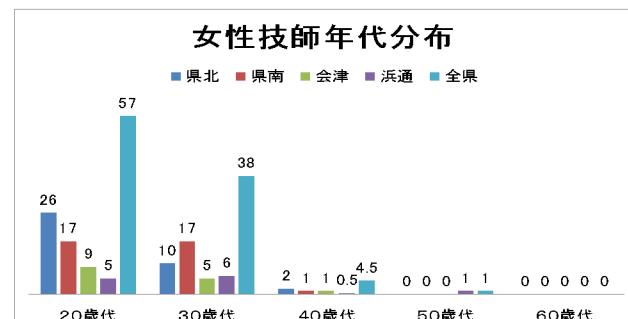
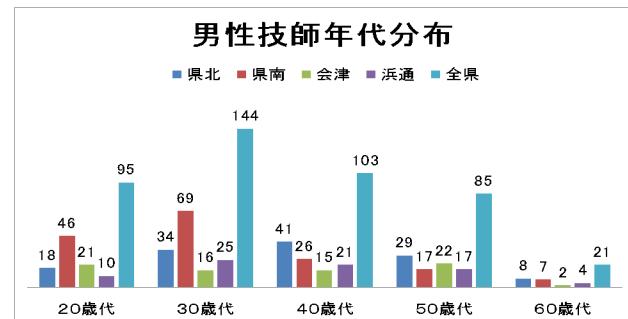
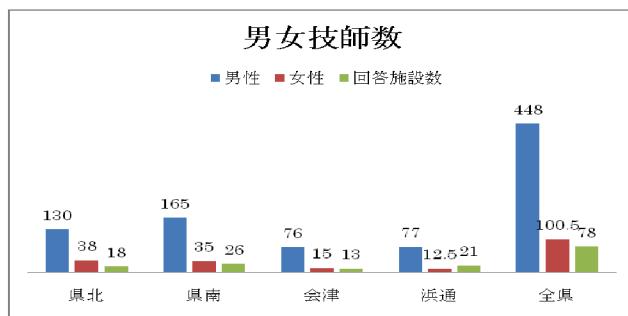
1 回収率

アンケート発送数142,回答数78、回収率は55%であった。

支部別の回収率差は、ほとんど無かった。

2 県内技師年齢分布

回答78施設での技師総数は548.5名で支部別入数はグラフのとおり。

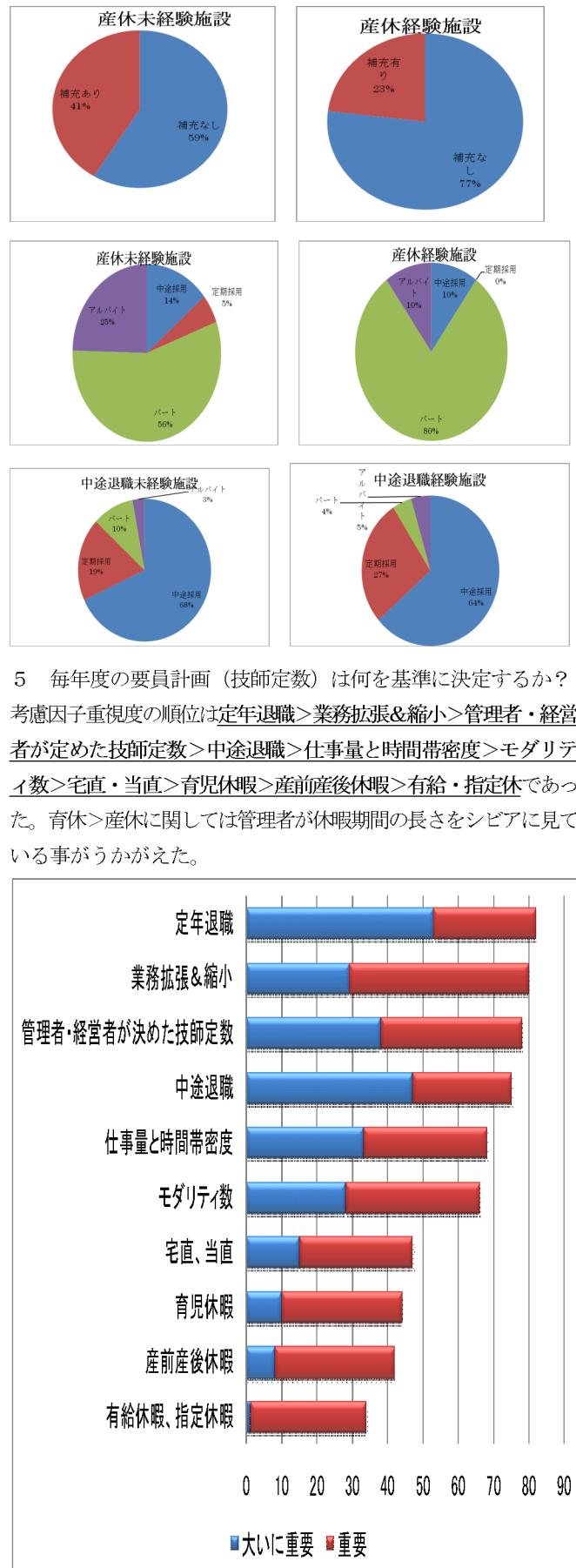


3 モダリティごとの技師配置

技師の装置間掛けものは一般撮影で5割強、ポータブルで6割強であった。CT、MRでは撮影プラス workstation等での画像処理が伴うため1名以上配置が8割であった。放射線治療でも治療計画と照射を並行して実施するため9割が複数技師配置であった。

4 産休・育休・中途退職が生じたと仮定した場合の対応は?

産休・育休ともに経験施設と未経験施設の間に意識差がみられ経験施設の方が補充、採用形態でよりシビアな対応を考えていることが分かった。中途退職では両者に差は見られず“空いた穴をすぐにでも埋めたい”との意識が強くうかがえた。



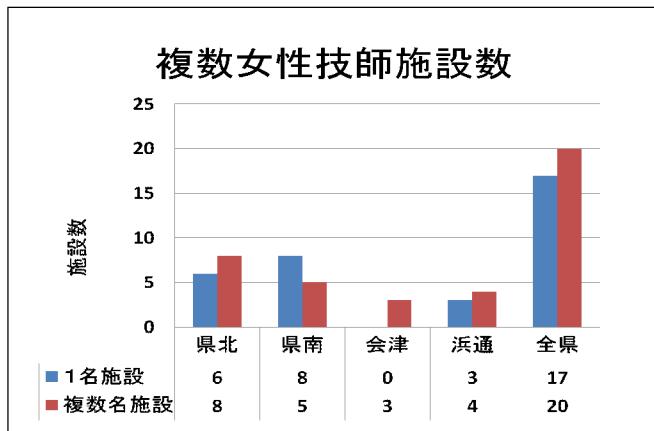
6 その他の項目

その他の因子
夜間、休祝日の呼び出し回数
クラークの配置で対応できるか
検診バスの出車日
補助員定数を技師定数に格上

その他の方法で不足技師数確保に関しては、クラーク配置、補助員定数を技師定数に格上げの2項目、その他の考慮因子では、夜間休日の呼び出し回数、検診バスの出車日の2項目の回答であった。

7 調査委員会への意見・要望事項（原文のまま記載）

- 1)女性技師が複数いる施設数はどのくらいあるのか知りたい(女性技師1名ではマンモ撮影時支障をきたしているので)



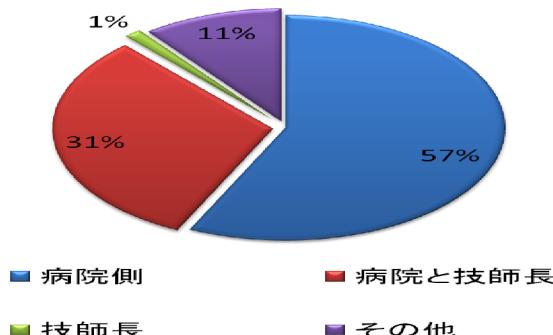
- 2)認定制度のあり方、たとえばマンモグラフィの認定はされたが、維持する為の更新試験等に納得されている方の割合！個人的には更新の講習は必要でも試験は必要ない（理由：いつでも受けられない。答え合わせがない。不平等）

- 3)話はそれると思いますが、私は一人技師職場です。日、祝日以外はほとんど休めず、体力的にも精神的にも大変です。何か解決策でもありましたら、学術大会にて、御教授お願いしたいと思います。
- 4)モダリティごとの実績の欄で、その他の項目があれば良かった。

8 結語

①当委員会が想定した要因(技師定数)計画決定因子以外に重視度記入が無かった事から技師定数は、これらの項目を基準に決定されると考えられた。

②技師定数決定者第1位は病院側の57%で技師長との回答は僅か1%ではあるが、現実的には技師長の意見具申を基に病院側が決定する事が多く、この事を勘案すれば技師定数決定者は技師長と言えなくもないと考える。



③調査委員会に対する要望等は原文のまま記載した。内容的に当調査委員会の範疇を超える項目が含まれているが、生の会員意見を掲載し問題提起することもアンケートの役割と考え原文を記載した。

● 結び

アンケートご協力有難うございました。

回答者のご意見は、今後の話し合いの参考にさせていただきます。
次回もよろしくお願ひ致します